

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもデイサービスきとん（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	令和 8 年 1 月 13 日		～ 令和 8 年 1 月 31 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 26	(回答者数)	26
○従業者評価実施期間	令和 8 年 1 月 13 日		～ 令和 8 年 1 月 15 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 2 月 25 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	明るく広い生活空間を提供できている。心地よく過ごせるスペースの工夫、職員の目が届く工夫ができています。	壁紙、家具などを明るい色を基調にし、季節感のある装飾をしている。冬はこたつを用意し、自然と子どもが集まる場を提供している。活動の場、学習スペースの区別がわかりやすい。訓練のための部屋も独立して2部屋あり、個別対応が可能。 また、フロアにいる子どもを職員がどこからでも見られるよう、死角を作らない構造にしている。	今の状態を保ちつつ、清潔感のある掃除の行き届いた空間を作るようにする。 保護者歓談スペースを活用していただけるよう、呼びかけていく。
2	保護者との情報共有、相談のしやすさ	連絡帳、LINE、送迎時などを利用して、子どもの活動の様子やエピソードを伝えるようにしている。子どもの変化を見逃さないように毎日ミーティングを行い、変化がある場合は保護者に聞くなどの対策を取っている。 相談は相談したいときが適時と考え、申し入れがあればその場でも時間を作るようにしている。	相談を利用する保護者様が限られてきているので、皆さんにお知らせを定期的にしていく。
3	支援プログラム・支援計画を適切に取り扱っている	支援プログラムは契約の際に冊子でお渡しし、説明を加えている。 支援計画は、原案の段階で保護者の意見を記入できるようにし、目に見える形で残すようにしている。モニタリングによって次回計画に変更が生じるときには原案にハイライトを入れ、保護者に何が変化したのかわかりやすいようにしている。	日頃の保護者様との会話からニーズを確実に広い、支援計画に反映していく。 また、連携会議などで学校からの意見なども同じ検討書の中に書き込み、各者の意見の同異がわかるように工夫する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童クラブや地域の子どもたちとの交流が薄い	同法人の園や児童クラブとの情報交換は密だが、子ども同士の交流はない。どうしても利用時間が同じなので、かかわる機会が作れない。活動として児童発達センターの発表会のリハーサルなど見学に行くことはあるが、放デイとなると難しい。	他のデイサービスとのかかわりを持ってはどうかと考えている。現在、佐伯市のデイサービスとの交流を検討中
2	父母の会の活動が活発ではない	仕事をしている保護者の方がほとんどなので、開催を企画しても参加できることが少なく、存在を知らない保護者も多い。 行事などの参加人数は30名ほどいるが、一度も参加していないご家庭もある。	父母の会の開催について啓発を図ると共に、議事録や研修の資料等、参加しなくてもお渡ししていく。 行事などは根気強く参加できそうなものを企画して気楽にご参加できるように工夫していく。
3	活動内容が周知やマニュアルの存在、避難訓練の実施が周知されていない。	活動内容、避難訓練のお知らせは月初めに行っているが、周知できていない。特に避難訓練は月に一回実施しているにもかかわらず、ご存じない方が多い。 各種マニュアル等は保護者歓談席にファイルとして閲覧可能にしているが、気づいていない保護者も多い。	SNSやHPを利用し、活動内容の具体例を示したり、避難訓練の様子などを積極的に知らせていく。 各種マニュアルについては冊子にして各家庭にお渡しする。